



食べたことのないものを見ても、「よだれ」は出ないって本当なの

「よだれ」が出るのは味を知っているものだけ

「よだれ」は、つば（だ液）が口の外に流れ出たものです。

わたしたちの口は、食べ物が入ると、消化を助けるために、だ液腺からどんどん「よだれ」（つば）を出します。また、味を知っているものなら、食べなくても見ただけでつばが出てきます。たとえば、梅干しやレモンを見ただけでつばが出るのは、梅干しやレモンがすっぱいことを知っているからで、食べたことのない、味を知らないものを見ても、「よだれ」（つば）は出ません。このように、食べなくても、見ただけでつばが出てくるようなことを、条件反射といえます。

条件反射を発見したパブロフの実験

条件反射を発見したのは、ロシアのパブロフという科学者で、イヌを使った有名な実験をしています。その実験では、イヌに食べ物をあたえるたびに、いつも同じ音を聞かせていると、やがて食べ物をあたえないときでも、その音を聞かせるだけで、イヌの口の中に、つばがたまってくるということを確かめたものです。そして、このようなことを、条件反射と名づけました。（監修・保志 宏）

食べ物をあたえるたびに、いつも、同じ音を聞かせる



食べ物をあたえなくても、同じ音を聞いただけでつばが出る

